

『一歩千里』

永田 隆一

走ってれば、
見えてくる



第32回

もちろん、災難や苦難は、避けて通りたいものでありますが、日本という国を取り巻く環境は、リーマンショック後、まさに災難と苦難の連続であります。

カット、資産の売却、有
利子負債の圧縮。
◇顧客との直接対話を増や
し、将来のビジネス機会に
焦点を合わせた経営戦略の採
用。工場の海外移転、M&A、
企業同士の

ールリセットして、ゼロ
ベースで、評価に取り組
む。
◇コスト低減のボトルネ
ックとなっている課題を
具体的に解決しようと、
情報集めに奔走し始め

や苦難に直面し、息をのみ、
それなりに小手先の改善を
積み重ねてきたものの、
それだけではサバイバル
できない、また成長も
期待できないと、腹をくく
ったようにとらえてお
ります。

【感情・理性・意志】
「悲観は感情。楽観は意志」という言葉があり
ます。
また、「今ほしいものを
教えてくれるのが感情。
将来にほしいものを教え

食べるのを我慢できた
ら、マシユマロをもう1
つあげます。その時は、
2個のマシユマロが食べ
られますよ。
【実験2】
就職が決まった大学4
年生を対象に、その会社
に決定した理由を調査し
て、会社や、働いている
社員の雰囲気、扱ってい
る製品などを直観や感情
で気に入ったというAグ
ループと、会社の成長性、
事業計画の確からしさ

マーケットの潮目の変化が始まった マシユマロを食べるか、我慢するか

しかし、昨年の秋くらいから、『世の中の潮目の変化』を肌で感じるものが多くなってまいりました。

それは、『売上を最大に、コストを最小にする』という原理原則に立ち返って、企業や人々が、大きな決断を迅速に下し始めたという点でありま

た。
◇情報は、人につくという
ことで、情報や考え方の
中小企業との広いネット
ワークを有する企業や人
材との交流が増加してい
る。

てくれるのが理性」も。
ともに、筆者の好きな言葉
であります。
アメリカのある大学
で、次のような実験を行
い、数十年にわたって、追
跡調査をしております。

【実験1】
3歳の子供に、お母さんが、
少し出かけてきま
すねと話して、マシユマ
ロを1個テーブルに置き
ます。食べたくなったら
食べて良いよ。でも、お
母さんが帰ってくるまで

【実験1の結果】
子供の70%は、お母さんが
いない間に、マシユマ
ロを1個食べました。
30%は、お母さんが戻
るまで我慢して、2個の
マシユマロをもらいま
した。

◇赤字を垂れ流している
粗業に見切りをつける。
工場閉鎖や、希望退職募
集。

◇品質を維持しながら、
コスト低減ができる技術
や、生産性を大きく改善
できるビジネスモデルの
情報に、真剣に耳を貸す
ようになり、導入までの
時間が大幅に短縮されて
きた。いままでのゆるま
湯のなまあの関係を才

◇ベンチャー企業や中小
企業でも、本物の技術力
や、課題解決能力を有す
る企業への引き合いや注
文が増えてきた。
企業や組織が『目覚め
た』ような、大きな変化
を筆者は感じます。災難

【実験2】
そして、20年追跡調査
をしたところ、我慢でき
た子供は、学業も優秀で、
アルコール・たばこをた
しなむ割合も低いといっ

【実験2の結果】
Aグループより、Bグ
ループのほうが、年収が
十数%高いという統計結
果がでました。
ただし、就職1年後、
Aグループの70%は、そ
の会社に就職できて幸せ
だと考えているのに対し、
Bグループは、30%
が幸せで、70%は不満が
多いという結果がでまし
た。

【腹をくくった日本人】
悲観論が渦巻く日本
は、感情的に受け入れた
くない現実と直面してき
ましたが、理性で現状打
開の方向性を見出し、意
志を持って行動に移し始
めたと考えられます。
腹をくくった、日本と
いう国に、一筋の力強い
光が見えてきたと、筆者
は大いに期待いたします。

◇不要不急なコストは、
大胆に低減する。オフィ
スの移転、宣伝広告費の

た。
た。災難

【毎月掲載】

【毎月掲載】

【毎月掲載】

【毎月掲載】